

水温・塩分の状況 (図1～3, 表1)

表層の水温は内湾で7～11 (平年より低め), 内房海域で10～14 (平年より低め) 表層の塩分は内湾で30～33 (平年より低め), 内房海域で33～34 (平年並み) でした。内湾縦断面の鉛直分布では水温7～11, 塩分30～32 でした。内房海域では水温10～15, 塩分33～34 でした。

黒潮の動き (図4)

2月3日の一都三県漁海況速報によると、黒潮は三宅島付近から房総半島沖を流れています。相模湾・東京湾口部への直接の影響はありません。

赤潮の状況 (図5, 表1)

今回の調査では赤潮にはいたりませんが、植物プランクトンの量の指標となるクロロフィルa量は8～20  $\mu g/L$  と増加しました (主要点8点)。内房海域でも同様の傾向です。栄養塩類量に影響が与える可能性があります。注意してください。

主なプランクトンは珪藻のユーカンピア (Eucampia zodiacus) と渦鞭毛藻のケラチウムフルカ (Ceratium furca) です。

千葉県赤潮の目安...色: オリーブ～褐色, 溶存酸素の飽和度: 150%以上, 透明度: 1.5m以下, pH: 8.5以上, クロロフィルa量: 50  $\mu g/L$  以上

表層の栄養塩類 (図6, 表1)

溶存無機態窒素 (DIN) は内湾で500～600  $\mu g/L$  台, 内房海域で100～300  $\mu g/L$  台, リン酸態リン (PO<sub>4</sub>-P) は全域で10  $\mu g/L$  台でした。

リンの少ない状況が続いています。注意してください。

東京湾ではDINが100  $\mu g/L$  以下, PO<sub>4</sub>-Pがその1/8 (12.5  $\mu g/L$ ) 以下になると, のり養殖に影響があるといわれています。

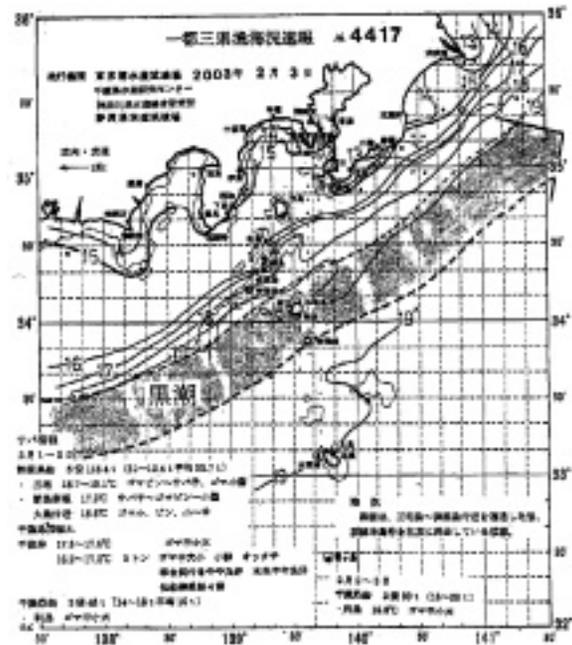


図4 黒潮の動き

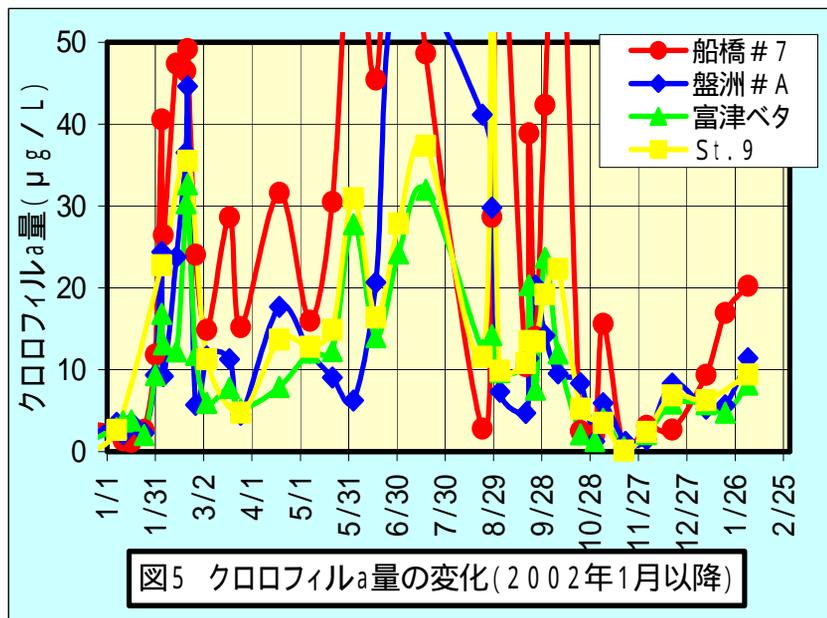


図5 クロロフィルa量の変化 (2002年1月以降)

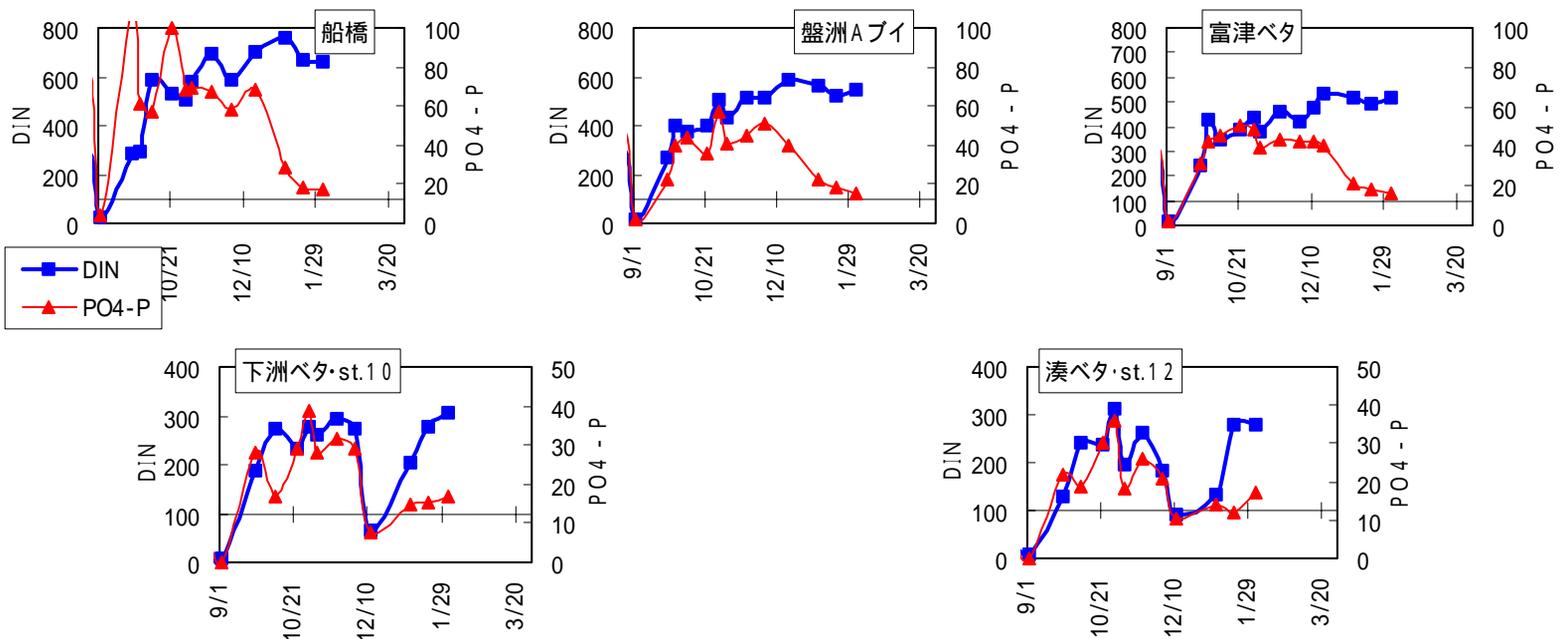


図6 栄養塩類の変化 ( $\mu g/L$ )